

平成29年度 佐賀西部コロニー 事業実績報告書

1. 法人運営に関するもの

社会福祉法の改正により、評議員選任・解任委員会による新評議員の選任をはじめ、新理事による新たな法人運営スタートの一年であった。また情報開示システムの開始により、毎年6月に佐賀県に報告する現況報告が全国統一様式となり、インターネットによる届け出になったなど、法改正に伴う事務量は増大し、非常に複雑となった。しかし定期の法人監査と合わせ、県の各担当者からの助言を受けながら、適正に法改正への移行を行うことができた。

昭和59年4月に授産施設としてスタートした当法人は、全国的にも注目を浴びるほど生産活動が活発な施設といえる。しかし障害者総合支援法に基づく新体系への移行により、生活介護事業に移行した多良岳福祉園や新たに事業を開始した佐賀西部ホームは、生産活動を主の目的としないサービスであり、従来の経営方針との差異が見られるようになった。こうしたことから「互譲互助」を新たな経営方針として掲げ、ご利用者、ご家族、職員そして法人や地域の皆さんの福祉を目指し、譲り合いの心と助け合いの心で取り組んでいる。

なお県内事業所の視察も行いながら、事業計画で掲げた6つの事業についても実施した。

2. 福祉事業活動

第10回全国海水（塩）農業セミナーは中止としたが、第33回全日本カブト虫相撲大会や佐賀西部コロニー収穫祭など盛会に実施することができた。また視察研修旅行をはじめ、野球観戦や食事会など各事業所で余暇活動も実施した。

3. 就労事業活動

多良岳福祉園では、鳥インフルエンザへの今後の不安により、養鶏事業を廃止し、更には昆虫の里よりさつまいも事業の移管を受け、各事業所での事業内容の見直しを進めていった。なお白石作業所においては、じゃばらジャムの新商品開発など、販売促進に取り組みと地域交流を施した。

平成29年度 昆虫の里 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

平成29年度は 繁雑化する就労事業の見直しを行い 一般作物班を多良岳福祉園に移管し事業のスリム化を図った。更に次年度の制度改正に向けて就労事業の在り方を再検討し 目標工賃達成を課題として純利益重視の生産活動に取り組んだ。こうした中 利用者処遇に関しては個別支援計画書に基づき、ひとりひとりにあった細かな支援を行い生活の質(QOL)の向上を目指し就労活動及び余暇活動など充実の強化を図った。

特に課題であった利用者の生活支援については、支援の方向性を一致できるように朝礼時に、行事や前日の引継ぎ事項などを全職員が把握し、支援の方向性やメンタルケアなど含む支援の統一性を図る事が出来た。

職員の資質向上については、各種研修会など参加や社会福祉主事、サビ管など資格取得の研修を受講させ、福祉施設職員としての知識向上と意識改革を図った。

(2) 施設利用者の豊かな人格形成

本年度の33回全日本カブト虫相撲大会は昨年に続き太良場所の1場所とし、本年度より事前準備を実行委員会で担い、担当職員が自主的に企画し利用者と共に準備に取り組むなど、今までの固定観念を見直すきっかけとなった。また大会時には利用者さんがスタッフとして参加し参加者と交流を深めた。

また地域元気営農事業においては「農福連携」の先進的な取り組みを行う法人として広く報道され 協力農家との交流はもちろん地域連携・地域密着型の事業の確立が出来た。

(3) 快適な質の高い施設づくり

利用者個々に合わせた支援を目指し、佐賀西部ホームと連携して支援にあたった。

また毎月第1土曜日を環境整備の日として施設内の環境美化に取り組んだ。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

安全配慮に心がけ、けがのない安全で明るい作業場の環境づくりに努めた。

更に本年度から朝礼時にラジオ体操を取入れ、体力維持や体調管理に心がけてもらい毎日元気に作業できるように取組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度は、利用者の増減は無くサービス活動収益計は、110,439千円と昨年より▲11,728千円の減収となった。一昨年から人員は減であるが昨年度と比較すると精神疾患の方が、メンタルケアを受けることで安定してサービス利用が出来た。また入院などが必要になった時も、加療期間が短期であるなど不安定期が短くサービス利用増となっている。施設整備については木工部門に製材送材台車と耳摺り機、印刷部門にミシン、園芸部門に耕運機、事務所に会計ソフトを導入し 安全面や作業効率化など作業負担軽減を目的に購入した。

3. 就労支援事業活動

今年度は、一般作物班を移管したことにより全体の収入より目標工賃達成と収支に重点を置いた。木工事業や園芸事業の機械等整備や更新を進め、特に安全作業や作業負担軽減への取り組みを実施し、更に経費節減を図るなど事業の再検討や見直しを図った。木工部門については「さが維新塾」の取組みで県下の中学校に木製新聞ラックを3年間受注が決まり 園芸部門についてはみかん販売が順調に進み、前年度より10,562千円減の37,933千円の就労支援事業収入になったが最終的に収支は黒字で終えた。なお 利用者の工賃については、昨年度比45円増額の一人当り月平均35,140円を支給することが出来た。

部門別の実績については、下記のとおりである。

	平成29年度 (千円)	平成28年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
木工部門収入	13,389	15,025	▲1,636	89.1
昆虫部門収入	1,884	1,705	179	105.0
園芸部門収入	14,154	10,291	3,863	137.5
印刷部門収入	8,575	11,261	▲2,686	76.1
合 計	38,004	48,496	▲10,492	78.4
一人当り工賃	(円/月) 35,140	(円/月) 35,095	45	100.1

平成29年度 佐賀西部ホーム 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) グループホーム運営について

今年度は、利用者さんの生活の質(QOL)の向上を目指すべく運営に努めてまいりました。

グループホームは利用者さんにとって「我が家」であり、支援員は家族同様の思いで個別支援計画に基づき細やかな支援に努めてまいりました。

また利用者の皆さんが安心・安全な暮らしができる家づくりを目指し、防火・防災対策については防火避難訓練及び水防法（土砂災害時避難確保計画）に基づいて大浦校区の指定避難場所まで移動訓練を実施しました。防犯対策については、まだ未整備の面があり今後の課題として早急に取り組みたいと思います。

インフルエンザ・食中毒等の感染症対策に於いては、予防対策を徹底しグループホームから発症者が出る事なく、皆さん元気に過ごされました。

利用者の方の処遇に関しては利用者の皆さんの要望を聞きながら、生活面及び処遇環境の向上に努め、利用者の皆さんが自主的に決められたことは肯定し自分たちで出来ることは自分達で行う等、自立に向けた見守り支援を実施した。

余暇活動については昨年度より「サッカー観戦」や「野球観戦」などスポーツ観戦及びスポーツ教室に参加するなど、利用者さんの楽しみをホーム生活の中に取り入れた。

また生活支援員で「買い物支援」を季節毎に実施して普段着や作業服、靴及び大型の収納ケースなど購入支援が必要な方については同行支援を行った。

職員の資質向上については、社会福祉主事取得や各種研修会の参加を促し、障害福祉サービス事業所の職員としてのスキルアップに努めた。

(2) グループホーム利用者の豊かな人格形成

今年度は、視察研修旅行を始め、勤労感謝の会、更には佐賀市中心部のどん3の森で開催した「佐賀西部コロニー収穫祭」など、地域との交流を図りながら、利用者の皆さんが楽しい生活が送れる支援に努めた。

(3) 快適な質の高いグループホームづくり

昆虫の里との連携を図りながら、施設環境整備の向上を目指し、毎月第3土曜日を環境整備の日として ホーム内外の清掃を行い 整理整頓の行き届いたホームづくりを行った。

(4) 喜び溢れるグループホームづくり

安心して生活できる生活環境の向上を図り、活力ある明るいホームづくりに努めた。

2. 福祉事業活動

本年度は利用者の増減なく、福祉事業活動収入 44,542千円と前年より229千円の減収となった。なお利用者さんの支援については、個別支援計画に基づき、生活支援員を中心に世話人と連携を図りながら、本人の意思を尊重して支援にあたった。

平成29年度 多良岳福祉園 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

平成29年度は 改正 社会福祉法の完全施行の年であり、法人経営や組織体制が大きく変わり、事業運営の透明性や地域に根差した施設づくりが一層 求められるようになってきている。こうした中、新たに掲げられた 佐賀西部コロニー経営方針「互譲互助」の精神を常に心掛け、職員が相互に協力し合いながら、本年度の事業に取り組んだ。

日中活動については、県内でも発生した鳥インフルエンザにより、平成20年から取り組んできた養鶏事業を廃止し、昆虫の里から移管されたさつま芋事業や商品広報活動に課題があった野草事業の諸問題を解消し、農産部門と合わせて事業の再構築を行ってきた。また年末には施設内のクスノキをLEDランプでライトアップするなど、楽しい施設づくりにも取り組んだ。

(2) 施設利用者の豊かな人格形成

今年度は、山茶花高原や風の牧場での食事会を実施し、また 佐賀西部コロニー運動会や勤労感謝の会などでは、職員が中心になり、ご利用者とご家族が楽しんでもらえるよう取り組んだ。また3施設合同の視察研修旅行では、社会ルールを体験し、個々の成長と利用者との相互の交流を一層深めた。

(3) 快適な質の高い施設づくり

ふれあいコーナーや各倉庫、更には風呂場や脱衣場の大掛かりな片付けや清掃、各所修繕を実施した。特に毎週金曜日の整理整頓重点の日を中心に、日頃 手が行き届かない場所や居室の片づけをご利用者と職員が一緒になり取り組んだ。

職員の資質向上については、県社協主催の各種研修会への参加をはじめ、事業所内でも研鑽の場として研修発表会を実施し、個々に求められる能力のスキルアップの向上に取り組んだ。

また ご利用者の支援にあたっては、個別のケース会議を開催しながら、支援方針の共有しながら、個別支援計画に基づき、チームによる丁寧な支援に心掛けた。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

しいたけ栽培の管理向上と作業効率を図るため、新たな収穫作業プレハブと空調機の設置を行い、またさつま芋も事業についても問題なく昆虫の里から移管できるようトラックや発電機などの設備の導入をおこなった。

2. 福祉事業活動

本年度は、社会的問題行動のある方など多良岳福祉園に入所を希望する方に対してもまずは実習訓練による受入れを行いながら、1名の方が入所となり増員となった。事業収入としては、昨年度の障害福祉等サービス事業収益180,650千円に対し 本年度は、183,504千円となり2,854千円の増益となった。

3. 日中事業活動

今年度より養鶏部門を廃止したが、昆虫の里より移管されたさつまいも事業を始め、野草部門や農産部門の販路拡大を行った。また印刷部門については、対象となるご利用者がなくなったことで、年度途中での事業の見直しを行った。なお就労支援事業収入は全体で23,208千円となり、利用者の工賃については、一人当月平均12,449円の支給となり昨年度より49円の増額となった。

部門別の収入実績については、下記のとおりである。

	平成29年度 (千円)	平成28年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
園芸部門収入	4,045	372	3,673	1,087.4
農産部門収入	19,520	19,096	424	102.2
野草部門収入	1,040	1,287	▲247	80.8
美化部門収入	82	0	82	—
印刷部門収入	0	—	—	—
養鶏部門収入	—	5,706	▲5,706	—
合 計	24,687	26,461	▲1,774	93.3
一人当月工賃	(円/月) 12,449	(円/月) 12,400	49	100.4

4. 相談支援事業

本年度も 日頃から行政機関や地域の社会資源を重視した連携を深めながら、利用者意向を第一としたサービス等利用計画の作成に努めた。

平成29年度 白石作業所 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

(イ) 今年度は、社会福祉法の改正が本格的に施行され、地域における社会福祉法人の役割が一層求められた年度であった。又、来年度に行われる介護報酬の改定を迎え 厳しい施設の運営が予想された。こうした中、施設利用者と施設の安全・安心な環境を整備していくため、設備整備と職員の資質向上や意識改革に努めていき、就労移行・就労継続B型事業所として、施設資源を十分に活用しながら、利用者のニーズに適った明るく元気よくをモットーに働き甲斐のある施設づくりに全職員一丸となって取り組んだ。
今年も利用者自ら地域での販売活動等によりご支援をいただいた皆様に支えられながら、地域と共に生き甲斐と満足を持って作業に従事し、円滑に施設運営を進めることができた。

(ロ) 利用者の処遇に関しては、「明るく楽しく」をモットーに、就業中における事故等が起きず作業の安全が守られるように、職員の意識向上の啓発に努めるながら 労働安全衛生管理の徹底に取り組んだ。又、利用者と施設の安心・安全確保のため昨年度に導入した緊急通報システムを有効に活用し、施設の保安管理を進めた。

(ハ) 職員の資質向上については、個々人の研鑽と意識改革の喚起を促すとともに、各種研修会等の参加を全職員に義務付けし、障害福祉サービスの職員としてのスキルアップに努めた。

(2) 施設利用者の豊かな人格形成

佐賀西部コロニー 3施設合同による運動会・視察研修旅行、隣接する老人福祉施設の納涼祭への参加、また、県内各地区の婦人会・老人会等との「ふれあい事業」の実施など施設内外での行事や地域との交流も活発に行うことにより、チームワークの大切さと人との交流の喜びを習得させるよう努めた。

(3) 働き甲斐のある施設づくり

法人の運営理念である『互譲互助』精神と『朝の笑顔で、明るく楽しい1日を過ごしましょう』を1年の目標として、挨拶が響きあう明るい職場作りに努め、創意工夫を重ねながら、より効率的な作業体制をつくり、安全で快適な働き甲斐のある施設づくりに努めた。
また、利用者で作る互助会を中心として、自分たちの意思で 整理整頓の行き届いた施設づくりに努めるよう指導を徹底した。

2. 福祉事業活動

本年度の障害福祉サービス事業収入は、67,611千円となり前年度より618千円の増額の決算となった。施設整備の中では 合併浄化槽を廃止し、白石町下水道への排水施設整備や白石町の就労支援事業所に対する補助金を利用し、送迎車へのドライブレコーダー装置の整備などを行った。
今年度は、利用者の3名の減員と2名の増員があり1名減員となったが、開所日数の増加により、全体の利用日数の増加で運営費の増収も行うことができた。

3. 就労事業活動

本年度、就労事業収入は 39,480千円 となり、自家製品の製造販売である農産収入は増収となったが、一般商品の販売収入減により 前年度に対し 1,323千円の全体として減収となった。
利用者工賃については、毎年アップすることを目標に、利用者、職員一体となって頑張っているところである。平成29年度は 一人当たり 月平均 26,602円 となり、前年度の 26,573円 に対して 29円 の増額となった。

部門別の実績については、下記のとおりである。

部門	年度	平成29年度 (千円)	平成28年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
木工収入		0	357	▲ 357	0.0
農産収入		20,461	19,330	1,131	105.9
販売収入		19,019	21,116	▲ 2,097	90.1
合 計		39,480	40,803	▲ 1,323	96.8
1人当たり工賃		(円・月) 26,602	(円・月) 26,573	(円・月) 29	100.1